

ムラサキツバメ

かつて富士市には本種は全く生息していませんでしたが、近年北進が目立ち、近畿地方で現在は普通に見られ、東海地方を経て山梨県、関東地方にも進出してきました。神奈川県、千葉県その他、茨城県のほぼ全域、東京都のほぼ全域、埼玉県平野部、栃木県、群馬県、長野県で記録されています。本種の北進の要因として、地球温暖化による自然分布拡大、食樹（特にマテバシイ）の移植、放チョウなどの人為的要因の可能性が考えられます。

成虫は、集団を形成して越冬することが多いです。

幼虫の食樹はマテバシイ、シリブカガシなどのブナ科で、中令以後の幼虫にはアリが訪れていることが多くあります。

富士市での現状

食樹のマテバシイが植栽された市街地の並木道や工場の構内でよく見られます。県道鷹岡富士停車場線の中島、県道富士停車場線の横割、県道水神田子の浦港線の宮島、中央公園、木島の富士川体育館付近等では本種の幼虫を数多く見ることができます。



ムラサキツバメを確認したメッシュ

